

特集

# 佐賀から世界へ



佐

賀から世界へ。サッカー女子ワールドカップ(W杯)で準優勝した「なでしこジャパン」で主力として大活躍した佐賀市出身の有吉織選手(日テレ・ベレーザ)は、小学生時代、女子選手は一人だけ、という環境の中、サッカーを楽しむ心を育んだ。惜しくも世界の頂点には立てなかったが、その原点は佐賀での無心にボールを蹴っていた日々にあった。

サッカー女子W杯決勝の前日には、佐賀市の三重津海軍所跡が世界遺産に登録された、という嬉しいニュースもたらされた。佐賀の先人の挑戦が時代を越えて普遍的な価値を認められたことを素直に喜びたい。

佐賀という場所にあっても、挑戦する心があれば世界への道は開かれている。有吉選手と三重津海軍所跡の世界遺産登録というニュースは、そのことを教えてくれる。



佐賀市提供



# 佐賀の歴史が世界の宝に

## 三重津海軍所跡が世界文化遺産登録



## 「サオリ頑張れ!!」130人声援 高木瀬公民館でPV

「サオリ頑張れ!!」サッカー女子ワールドカップ(W杯)カナダ大会決勝・アメリカとの頂上決戦。有吉選手の自宅近くの高木瀬公民館ではパブリックビューイング(PV)があり、有吉選手の両親、秀島敏行市長ら約130人が集まった。平日早朝にも関わらず集まった応援団は特製のうちわを手にし、日の丸のシールを顔に貼るなど、世紀の一戦に向け準備万端。

独特の緊張感が漂う中、青いユニホームに身を包んだ有吉選手が入場する姿が大画面に映し出されると会場からは大きな拍手が。試合は一方的なアメリカペース。前半16分までに4点を奪われる展開に会場からは大きなため息が漏れたが、テレビカメラが有吉選手を捉えるたびに大きな声援が飛ぶ。

後半、日本が意地を見せ2点差まで詰め寄ると会場は一気に盛り上がったが、直後に再び失点。しかし、佐賀からの声援は最後まで途切れることはなかった。

試合が終了すると、会場からはこれまでの健闘を称える大きな拍手が送られた。涙を流すまな娘を見つめ、父・敏和さんは「みんなに支えられてよく頑張った。この悔しさは次のバネになる」と笑顔で浮かべながら話した。有吉選手を小学生時代に指導した杉谷努さんは「練習を終えた後にスパイクを丁寧に磨いている姿がすごく印象に残っている。佐賀で真面目にサッカーを楽しんでいた子が、世界一の舞台上で活躍するのは想像もしていなかったので嬉しい。この悔しさは2年後の五輪でぜひ晴らしてほしい」とエールを送った。

**佐** 賀県初の世界遺産だ!! ドイツ・ボンで開催された国連教育科学文化機関(ユネスコ)世界遺産委員会は7月5日午後(日本時間5日夜)、佐賀市の三重津海軍所跡など8

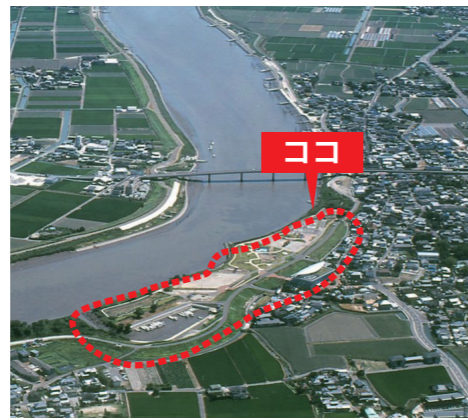
県23施設からなる「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界文化遺産登録を決めた。会議の模様が中継された佐賀市の佐賀商工ビルは、詰めかけた地元関係者らの歓声に沸いた。

### 7年来の活動が結実

午後10時50分すぎ、世界遺産登録が決定したことが伝えられると、秀島敏行市長は「プロジェクトが始動して7年。支えていただいた皆さん、大切に保全してきた川副、諸富の皆さん、本当にありがとうございます」と笑顔で感謝の言葉を口にした。日韓の調整が難航し、決定は一日先延ばしに。パブリックビューイング会場に集まった約80人は安どの表情を浮かべた。今回の登録は富士山(山



ドックの護岸施設 ※現在は埋め戻しているのを見ることが出来ません。



▲航空写真

〔バス〕JR佐賀駅バスセンターより  
佐賀市営バス 諸富・早津江線にて40分、  
佐野常民記念館入口バス停下車、徒歩で5分  
佐野常民記念館 TEL 0952-34-9455



世界遺産決定を受け、三重津海軍所跡にはたくさんの方が訪れた。遺構は木や土などで造られているため、保護の観点から現在は埋め戻されている。佐賀市の担当課は「現在のところ、遺跡を見える状態にしたまま保全することは技術的に困難」と語る。そこで佐賀県と佐賀市は、再現CGが見られる専用スコープを貸し出している。史跡で特定のポイントに立ち、スコープをのぞくと、原っぱの中に約160年前の景色が広がる。今後は観光資源としての活用を考えることも必要だろうが、まずは幕末、明治の佐賀人の業績や思いに触れ、現在の佐賀をよりよくするきっかけにすることが大事ではないだろうか。

### 再現CGで160年前の景色が

稽古所は1858(安政5)年に設置された。幕府の長崎伝習所が閉鎖されたことを受け、藩独自の海軍教育機関として南西方向に拡大。早津江川の上流から順に、和船を管理した「船屋」、宿舎や訓練場のあった「稽古場」、洋式艦船を修理したり、部品を製造したりした「修覆場」の3地区で構成される。同施設はその後、海員養成施設として1933年まで活用された。

### 同海軍所跡の前身となる御船手

三重津海軍所跡は、佐賀市諸富、川副町にまたがる早津江川流域に位置する幕末期の佐賀藩の海軍施設。当時の科学技術を結集し、洋式艦船の修理や蒸気船を製造していた。発掘調査で確認された、船を修理するためのドライドックⅡ、乾船渠Ⅱは現存するものとしては国内最古とされる。奥行きが60メートル以上で、有明海の干満差を利用して船を引き上げた。西洋では石やれんがで造る護岸を、階段状に組んだ木材で造っている。在来技術を駆使して西洋技術を受容していた証しで、日本の近代化の過程を知ることができる遺構として高く評価された。

### 国内最古の現存ドライドック

世界遺産に正式登録された「明治日本の産業革命遺産」は製鉄・製鋼、造船、石炭産業の3分野で重工業発展の基礎になった日本の近代化の過程を示す8県23施設で構成される。事前審査をした国際記念物遺跡会議(イコモス)は「西洋から非西洋国家に初めて産業化の波及が成功したことを示す」と世界的な価値を評価していた。

プロフィール  
ありよし さおり  
1987年11月1日佐賀市生まれ。神村学園中等部、神村学園高等部、日本体育大学卒業。2010年より日テレ・ベレーザに所属。



**有** 吉佐織選手は原勢として初めてなでしこジャパンに出され、右サイドバックに定着。8強入りがかかったオランダ戦で初ゴールを決め、準決勝のイングランド戦では先制のPKを誘い、最優秀選手「プレーヤー・オブ・ザ・マッチ」にも選ばれた。大会 MVP 候補となるなど、なでしこジャパン準Vを支えた。中学1年まで佐賀市で過ごした有吉選手は「佐賀はサッカーの楽しさに出合った場所。W杯でもふるさとからの声援がパワーになった。引き続き応援してほしい」と話してくれた。

—— 女子W杯準Vおめでとうございます。原勢から初めて選ばれ、攻守で存在感を示しました。決勝までスタメンで出場できて充実していたし、自分らしく思い切り楽しんでプレーできました。ただ、アメリカに負けた悔しさもあり、自分はまだまだと思われた大会でした。一番印象に残っているのは準決勝イングランド戦でPKを奪ったシーン。あの局面だけではなく、試合が始まってから右サイドのチームメイトと話していた相手の弱点を攻撃できました。普段、

MOTEMOTEさが読者に  
有吉選手の  
①直筆サイン入り  
代表ユニフォーム  
②サイン色紙  
をプレゼント!!  
詳しくはP152へ



# サッカーの楽しさ 佐賀で出会う

所属チームでやっているプレーをうまく出せました。

—— 準決勝イングランド戦では「プレーヤー・オブ・ザ・マッチ」に選ばれ、決勝トーナメント1回戦オランダ戦では初ゴールも決めました。

「プレーヤー」はとてもびっくりしたし、光栄に思います。ただ、私は1人で局面を打開する選手ではなく、味方との関係があって初めて自分らしさが出せます。仲間に感謝したいです。初ゴールは、あの瞬間、ボールが自分に来るような予感があった思い切り振り抜きました。「ラッキー、やった」という感じでした。

—— 決勝のアメリカ戦。世界の頂点で戦った感想は。

アメリカは前回、日本に敗れてこの4年間本当に悔しかったなと思います。今大会に賭ける気迫が伝わってきました。1点、2点と得点しても全く緩まず追加点を取りに来た。気迫、フィジカル、技術、すべてで格上でした。5万人規模の会場でプレーするという経験はほとんどなく、しかも完全にアウェー。失点するたびに「USA」コールがどんどん大きくなって、正直、雰囲気のみ込まれそうになりました。味方の声も届かず、つらい時間に声を掛け合うこともできませんでした。

—— 現在、フットサル場の受付として働きながらアマチュア選手として代表の座をつかんだ姿が話題になりました。

だいたい週4日午前10時から午後3時半ごろまで働いています。職場の配慮もありサッカー中心の生活ができています。同僚や利用者の方からもたくさん応援していただきました。今の

ところは、このままのスタイルを続けていきたいと考えています。

—— 佐賀でもパブリックビューイングがあり、大いに盛り上がりました。

本当にありがたいです。そうやって応援してもらえることに感謝しています。頑張ろうという力になります。また引き続き努力を続けますので、応援をよろしくお願いします。

—— 佐賀でも女子サッカー選手が増えそうです。

私の姿を見てサッカーをしたいと思ってもらえるなら嬉しいです。環境など、まだまだ整っていないと思いますが、今回のことで少しでも改善されたら本当に嬉しいです。そのためにも、もともと頑張りたいたいと思っています。佐賀は小学生時代にサッカーと出合った場所。女子は1人だったけど、そんなこと関係なく、サッカーをみんなで楽しむことができました。あの時に感じた、サッカーの面白さが今に繋がっていると思います。

—— 佐賀に帰省するときに一番したいことは？  
なかなか帰省できないんですが、母の料理が食べたいですね。焼き魚や唐揚げを用意してくれます。あと佐賀牛食べたい!! 祖母の家が唐津にあるので、呼子のイカも大好きです。

—— W杯の飛躍に続く次の目標を。  
オリンピックは今はまだ何も考えられませんが、私の選手人生はこれまでも一歩一歩でした。すぐになでしこリーグが再開するので、所属する日テレの優勝に貢献できるように、しっかり結果を残していきたいです。

# 有田ロケで頂いた皿 今も愛用

**先** 日、ヤフオク! ドームで行われた「AKB48 41st シングル選抜総選挙」で自身最高位となる7位に輝いたHKT48チームKIV (AKB48チームA兼任) の宮脇咲良さん。初の写真集「さくら」出版を記念し、東京都内で行われた記者会見には、多くの報道陣が詰めかけた。人気は、もはや全国区だ。モチモチさがでは咲良さんの単独インタビューに成功。今最も輝く17歳の素顔に迫った。  
(取材) 本誌発行人 橋詰空

——選抜総選挙7位おめでとうございませう! まずは総選挙の感想を。目標の「神7」というのは総選挙のスタートから口にしていました。が、正直入るとは思っていました。で、目標は高く、という意味で掲げてたので、まさか本当にランクインするとは…。ファンのみなさんに、ただひたすら感謝しています。

——今回の総選挙までの1年を振り返って思い浮かぶことは? 「希望的リフレイン」でダブルセンターに選んで頂いた、「マジすか学園4」で主演させてもらったりする度に、自分の実力の無さを何度も痛感しました。嬉しいことがある度に、実は自己嫌悪になったり悔しいことが多かったです。

——総選挙のスピーチでは「新しいAKBを作りたい」と決意を語っていました。

正直、気が動転していたので、自分が何を言ったのか微かな記憶しかありません。恥ずかしくて自分のスピーチを見せません。

——あのスピーチは事前に用意していたんですか?

考えていたところもありますし、みんなのスピーチを聞きながら変わったりします。

——総選挙で、九州からの応援の力は感じましたか。

今回は特にヤフオク! ドーム開催ということで、おばあちゃんも初めて会場に見に来てくれました。周りの鹿児島の人たちも応援してくれて「鹿児島の誇りだ」と言ってくれました。

——自分自身で九州出身だな、と実感する瞬間はありますか。

九州の女性は一步引いていると言われるので、遠慮がちなところはあるのかな、と思います。東京の人は人ごみの中でも自分の意思を持って歩いてる感じがします。私は人が多いと挙動不審になっちゃうから…(笑)。

——HKT48の中で一番、九州の女性っぽいと感じる人は誰ですか?

穴井千尋さんですね。はかなげな雰囲気だけど芯は強い。自分をしっかり持ちつつ、一步引いている感じとか。

——逆に九州っぽくないな、と思うのは?

村重杏奈ちゃん!! 山口出身なので当たり前なんです。グイグイ来ますね。最初はすごい子だな、と思っていましたが、今はもう慣れました。

——佐賀について知っていることは?

有田焼!! 中学2年生のときに有田町を舞台にしたドラマに出演しました。1カ月間くらい撮影があった。ドラマの舞台である磁器工場で食器を見て綺麗だな、と思いました。撮影後、桜の絵が描かれたお皿を頂きました。いまでも自宅で使用しています。ライブでも何度か佐賀に行っていますが、まだ佐賀牛は食べていませんね…。

——これから挑戦したいことは?

明治座の公演だったりドラマだったり、演技をする機会を与えて頂ける中で、もっといっぱい俳優さんや女優さんと一緒に演技をしたいという思いが強くなっています。いつか、憧れの満島ひかりさんと共演してみたいです!!

——モテモチは今年創刊5周年を迎えます。最後に読者さんへメッセージをお願いします。

モチモチが5周年おめでとうございませう!! オーディションの時から応援してくださって、すごく嬉しいです。これからも九州と佐賀を盛り上げられるようにメンバー全員でHKT48らしく頑張るので応援よろしくお願いします!! 佐賀は福岡から近いので、ぜひ劇場に遊びに来てもらって、少しでもHKT48に触れる機会が多くなるといいな、と思います。



宮脇 咲良 (みやわき さくら)  
1998年3月19日生まれ。鹿児島県出身。2011年、福岡を拠点とするアイドルグループ、HKT48に加入。現在、HKT48 チームKIVとAKB48 チームAメンバーを兼任中。AKB48のシングル「希望的リフレイン」では渡辺麻友とともにセンターをつとめる。2015年AKB48 選抜総選挙では「神7」入りとなる第7位にランクインした。

## 「またひとつ、夢が叶いました!」(宮脇咲良) AKB48グループの“ヤングエース”、宮脇咲良の魅力が満載のファースト写真集! 撮影/桑島智輝



「17歳で写真集を出す」ということが夢のひとつだったので、とっても嬉しいです! 鹿児島のおばあちゃんの家や、コンサートの舞台裏でも撮っていただき、素の私を出せたと思います。いつもは自分の笑っている顔が好きじゃないんですが、写真集を見ながら「私こんな笑い方するんだ!」って、自分の知らない自分を見つけた気分になりました。お気に入りには、大人っぽいドレスを着たカット。“大人の女性”って感じの今までにない表情に挑戦しています!



**MOTEMOTE さが読者にサイン入りでプレゼント!!**  
詳しくはP152へ

集英社刊/B5版/144P  
定価1,620円  
(本体1,500円+税)  
特別付録: B3 リバーシブル  
ポスター1枚封入(全4種類)